

琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.68
2018. August

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「新重症病棟の完成について」

療育指導室長 金城 安樹

平成30年7月、琉球病院の新重症心身障害病棟及び療育棟が完成しました。山と海の近くの自然豊かな地に金武湾、山並みを景観に赤瓦をのせた3階建ての建物となっております。病棟は2ヶ病棟、80床から90床へ増床となります。居住空間の拡大、強度の行動障害に対して適切に対応できるよう環境面の工夫を行いました。療育棟は集団活動の提供や粗大運動等の実施の為、約300㎡、200名収容を想定したホール、感覚刺激や動作法、ワーキングシステム等の提供を想定し各種部屋を用意しました。

当院の重症心身障害病棟は昭和51年7月開棟し42年目を迎えました。利用者の多くは重度の知的障害に加え、強度の自閉性障害やてんかんを有しているだけではなく、著しい自傷や他害行為を繰り返す「強度行動障害」を呈する方々が入院されています。一方で身体合併症や機能低下等により車椅子を使用する方も増えてきており、重症心身障害児者の医療及び強度行動障害への対応に取り組んでいます。在宅支援では、短期入所の利用日数が年々増加してきており、県内唯一のいわゆる動く重症心身障害病棟（療養介護・医療型障害児入所支援施設）として治療機能を深めていきたいと考えます。

7月21日(土)に予定していました内覧会は、台風10号の為中止となりましたが、約130名の方から申し込みを頂いておりました。また、新病棟完成にあたりお祝いのお花も頂きました。この場を借りまして感謝申し上げます。

当院は今後も県内の中核施設として入所支援、在宅支援の充実に取り組んでまいります。どうぞ宜しくお願い致します。



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成 平成29年2月
- 新病棟（第2期工事）完成予定 平成30年10月

教育・研修

- 琉球病院益踊り大会
日時：平成30年8月9日(木)13:30～15:00
場所：あしびなあ体育館

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般精神をはじめ、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。

また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたく思っております。初診はじめ、受診については予約で行っております。ご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。



空床状況
7月31日現在

精神科病棟
9床

認知症
9床

アルコール
16床

児童思春期ユニット
1床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・ 精神科病棟 181床
- ・ 認知症 50床
- ・ アルコール 54床
- ・ 児童思春期
ユニット 4床
- ・ 重症心身
障がい 80床
- ・ 医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩バス
[77番名護線]浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武ICインターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について



琉球病院は、国立病院機構
(NHO: National Hospital
Organization)という143の病院
からなる国内最大級の病院ネットワ
ークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病
院ネットワークが、どのようなグルー
プでどのような活動
をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院
機構通信～」を発行しています。外来ロビーに設置し
てありますので、ぜひご覧になってください。
なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載して
いますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO
PRESS」で検索してください。

NHO PRESS 検索 QRコード

お問い合わせ時間
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成 22 年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例は 241 例になりました。平成 30 年 6 月の CLZ 導入は 3 例で、いずれも他の病院からのご紹介の患者様 (入院中 3 例、通院中 0 例) でした。CLZ 治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に 3 回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っています。平成 30 年 4 月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

7 月 19 日～ 20 日の 2 日間、東京にて開催された『子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議』『子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院主催研修会』に参加しました。

『連絡会議』は「医療連携が難しい地域とのネットワーク形成について」がテーマで、本県からもこれまでの取り組みについて発表させて頂きました。フロアの方からのご意見や他県の取り組みの報告からとても多くのことを学ぶことができました。

『拠点病院主催研修会』では、「子どもの心と性」をテーマに、様々な領域にて第一線でご活躍されている先生方からの講義がありました。「子どもの心と性の発達」「発達障害と性教育」「LGBT と性別違和」「性被害・性加害の心理」と、子どもを取り巻く性に関する様々な課題についてわかりやすく解説して頂き、支援者として何ができるのか、何が求められているのかについて、改めて考える機会となりました。

今回得た情報や知見を、今後の診療や事業に活かしていきたいと考えています。

認知症医療

7 月 9 日に病棟レクとして【七夕祭】を行いました。患者様による開会の挨拶から始まり、心理士さんによる紙芝居、患者様によるハンドベル演奏、医師によるウクレレ演奏など多くの催し物がありました。

また、午前中の作業療法活動で作成したフルーチェやお菓子、コーヒー・紅茶を堪能しながら談笑し、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今後も病棟レクの計画を行い、楽しく安全に参加ができるよう病棟でも取り組んでいきたいと思っております。

重症心身障がい医療

<ミニミニ運動会・家族施設懇談会>

麻疹流行の為、延期になっておりましたミニミニ運動会を 7 月 5 日 (土) に開催しました。前日からあいにくの雨であった為、会場を中庭から変更し病棟ホールで行いました。西病棟は主な種目として綱引きやパラシュートダンス、ピンポン玉運びリレーを行い、西Ⅱ病棟は棒倒し、風船はり競争、ダンスを行いました。25 家族 39 名の参加があり、それぞれの病棟で利用者の皆さんご家族と共に競技を楽しまれた様子でした。終了後は療育棟にて家族施設懇談会を開催しました。利用者支援に関することや、新棟についての経過報告、意見交換等が行われました。今後もご家族との情報交換を行うと共に、より豊かな利用者支援の充実に向けて取り組んでまいります。

アルコール・薬物依存医療

平成 25 年 5 月 27 日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では 6 月末現在、外来通院の患者様 78 名、入院中の患者様 19 名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成 30 年 6 月の訪問看護利用者件数は、715 件ありました。月別平均では 33 件の訪問看護の展開となりました。訪問看護では、退院後や通院を継続しながら地域での生活がスムーズに送れるよう病状が安定し、地域や施設等で自立した日常生活が送れるように支援を行っています。

今年も、台風季節となりすでに連続での台風の発生があります。訪問看護では、暴風警報が発令され公共交通機関が止まっていることを目安に、訪問看護を中止とします。台風発生前日に、利用者様の薬の確認や、電話での状況確認を行っています。今後も台風発生が予測されます。万全な備えで、安全を確保しましょう。

臨床研究部活動状況

『医療観察法指定通院医療機関の機能分化に関する研究』 一対象者の受け入れ人数を中心に一 副院長 大鶴 卓

全国の医療観察法指定通院医療の処遇状況を把握することを目的とし、アンケート調査を実施しました。平成 28 年度 6 月 30 日時点で全国に指定通院医療機関は 563 施設 (病院 502、診療所 :61) あり、331 施設から回答を得ました (回収率 58.8%)。これまで対象者を受け入れた人数と施設数について、最も多かったのが 1～5 名 (204 施設)、次いで 6～10 名 (54 施設)、そして受け入れたことがない施設が 31 施設あった。受け入れ人数を 10 人以下でまとめると 87.3%を占めた。一方 26 名以上受け入れたことのある施設は全体の 1%であった。医療観察法施行から 12 年が経過したが指定通院医療機関で通院処遇対象者の医療を経験する機会は少なく臨床蓄積が難しい実態がわかった。

H29 年度国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野) 医療観察法における、新たな治療介入法や行動制御に係る指標の開発等に関する研究 研究開発分担報告 より一部抜粋

受け入れ人数	施設数 (%)
0	31 (9.37)
1～5	204 (61.63)
6～10	54 (16.31)
11～15	19 (5.74)
16～20	13 (3.93)
21～25	0
26～30	3 (0.91)
31～35	1 (0.3)
36～40	0
41～50	0
51～55	0
56～60	1 (0.3)
合計	331 (100)

受け入れ人数と施設数